

☆新第3病棟開設記念特大号☆

contents

- ・新第3病棟の竣工に寄せて
- ・新第3病棟概要
- ・竣工式を執り行いました
- ・内覧会・患者引継ぎ訓練を実施
- ・外務大臣から感謝状
- ・手術ロボットを導入
- ・診療科紹介
- ・三鷹市老人クラブと講演会を開催
- ・公開講演会・研修のご案内

【杏林大学医学部付属病院】
〒181-8611 三鷹市新川6-20-2
Tel 0422-47-5511 (代表)
<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/>



新第3病棟が完成 運用開始

新第3病棟のフロアマップ

屋上	ヘリポート
10階	共用個室
9階	
8階	皮膚科、高齢診療科
7階	消化器内科、腫瘍内科
6階	呼吸器内科
5階	消化器内科、神経内科、 糖尿病・内分泌・代謝内科
4階	脳卒中センター
3階	血液内科
2階	耳鼻咽喉科、 腎臓・リウマチ膠原病内科
1階	HCU
B1階	機械室・電気室など



ヘリポート



10階・9階の特別室



1階のHCU

新第3病棟の竣工に寄せて ～病院長挨拶～



新しい病棟は「森の病院」をコンセプトとして武蔵野の面影を残す周辺の緑を取り込み、軟らかな日射し、採光、通風に配慮した作りになっております。また、免震構造は患者さん、職員の安全を担保するものであります。

新第3病棟には各所に創意・工夫がなされています。たとえば1階はすべてのフロアがHCUとなっており、ATTからの患者移動が容易な導線に設計しています。また、これから需要が増大するであろう脳卒中科は専用のフロアで充実した環境を配備しました。各部屋に設置された臭気対策も画期的なものであります。

もう一つの特徴はヘリポートの新設です。東日本大地震の経験から、より広域的な医療をカバーする目的で、三鷹市・東京消防庁からの要望もありヘリポートを設置しました。当院は3次救急の拠点病院となっており、機能も充実しています。この機能を広く国民に還元すべく、また、島しょ地区、山岳地区の救急に対応すべく活動していきたく思いますので、地域住民の皆様および関係各位のご協力もよろしくお願い致します。

当院は地域に立脚した医療をモットーにしています。体調のすぐれない人が利用する病院を、心癒される空間にしていきたく願っております。今後もこの基本的な理念を皆様がたのご協力を頂いて、更に発展させて頂ければと切望しております。どうぞよろしくお願い致します。

病院長 甲能直幸

新第3病棟 概要

規模

地下1階 地上10階 屋上2階
延床面積 約22,000㎡ 建物高さ 約35m 病床数 370床

特徴

● 連結免震構造

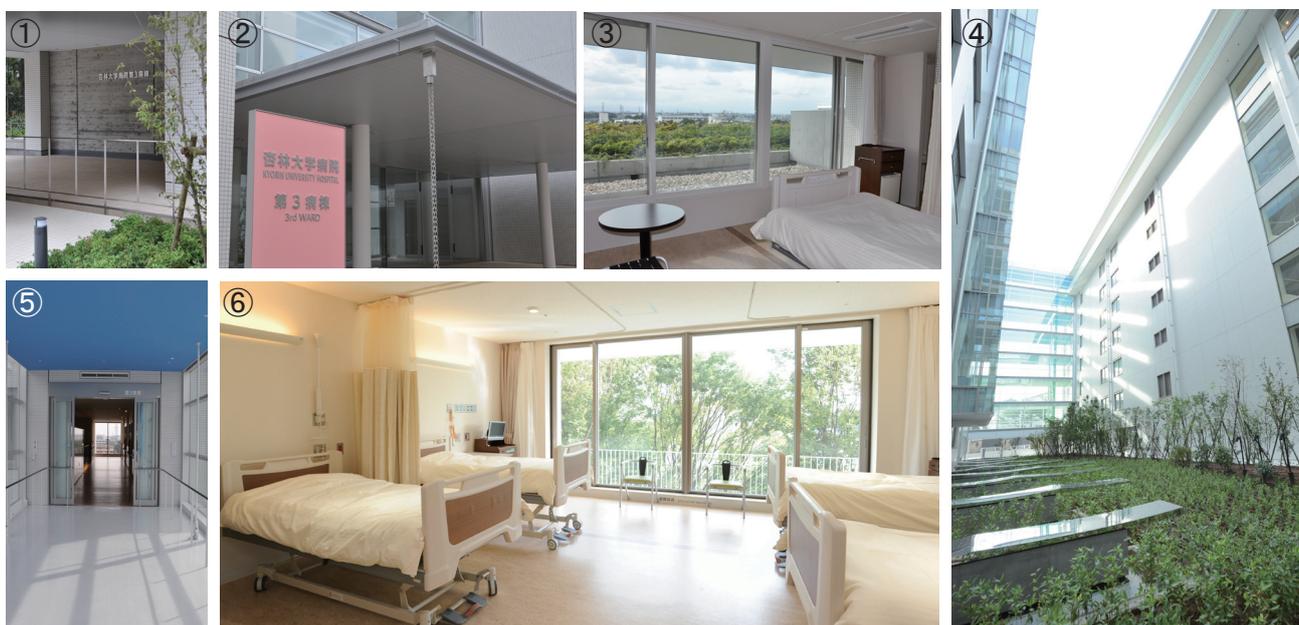
地下1階の床下に免震装置を有し、建物北側の外科病棟と連結一体化した免震構造です。新第3病棟と外科病棟は各階の関連診療科が渡り廊下で繋がっており、スムーズに連携が取れるようになっています。

● HCU

24床。モニター完備の全室個室で、4部屋に透析設備を備えています。感染症病棟としての役割で、陰圧4部屋、陰陽圧4部屋を配置しています。

● 脳卒中センター

一般病床30床、脳卒中ケアユニット9床。専用のリハビリテーションルームを設けるとともに、看護師たちがすぐ近くで見守る生活介助コーナーを同一フロアに設けています。



①②第3病棟入口、③9階個室、④中庭と渡り廊下⑤渡り廊下⑥一般病棟4床室、⑦脳卒中センターの生活介助コーナー⑧一般病棟の個室⑨浴室

■ 竣工式を執り行いました

新第3病棟の竣工式を9月25日（火）に行いました。

竣工式は神事として、修祓の儀から始まり、降神の儀、献饌の儀、祝詞奏上、竣工の儀を経て玉串奉奠を行い、松田博青理事長が玉串を神前にささげました。続いて、跡見裕学長とともに本学教職員一同でかしわ手を打ち、感謝・慶びの意を表しました。その後、撤饌の儀、昇神の儀を経て閉式となりました。

式に続いての直会では、無事病棟が竣工したことについて、建設管理・設計等を行った㈱松田平田設計、㈱竹中工務店、三機工業㈱、各々に対して松田理事長から感謝状をお贈りし、また各社から本学には竣工祝品が贈呈されました。その後、跡見学長の挨拶で乾杯、新病棟の完成を祝って和やかに歓談しました。



■ 内覧会・患者引継ぎ訓練を実施



訓練を見学する清原慶子市長

新第3病棟の本格的な運用を目前にした10月2日(火)、北村吉男東京消防庁消防総監、清原慶子三鷹市長をはじめ、日頃から病院運営にご協力いただいている方々をお招きし、内覧会およびヘリコプター患者引継ぎ訓練を行いました。

訓練は本番さながらに、ヘルメットや専用のスタッフジャンパーを着用した高度救命救急センターの医師や看護師が、エレベーター前の患者待機場所でストレッチャーに乗せた人形を患者に見立てヘリコプターの到着を待機、ヘリコプターは調布市側(南)から進入し、ゆっくりと着地しました。ヘリコプターから降りてきた救急隊員の指示で搬出が始まり、医師や看護師は身をかがめて患者を運び、バックボードごとヘリコプターへ移乗、救急科の八木橋徹助教が同乗し、三鷹市側(北)へ飛び立ちました。ヘリコプターは病院の上空を旋回して、再度ヘリポートに降り立ち、同様の手順で患者搬入訓練を実施しました。

訓練見学終了後、来賓一行は齋藤英昭副院長の案内で9階の個室病棟や、4階の脳卒中センター、1階のHCUを回り、最新の設備や患者の療養環境、スタッフの導線を考慮した構造などを見学し、内覧会は終了しました。

また、内覧会終了後は記者会見が行われ、甲能直幸病院長、齋藤副院長が記者たちの質問に丁寧に答えました。

■ 当院高度救命救急センター職員に外務大臣から感謝状を授与



感謝状を手にする佐藤明美看護師

5月18日(金)、国際緊急援助隊参加者に対する外務大臣感謝状授与式が外務省で行われ、当院高度救命救急センター・山口芳裕センター長と佐藤明美看護師に玄葉光一郎外務大臣より感謝状が授与されました。これは、昨年8月にロシア連邦ノヴォロシツク地方で発生した石油精製工場の火災事故で全身火傷の重傷を負い、当院高度救命救急センターに搬送された患者の治療にあたったことについて、国際協力及び日ロの友好親善関係の発展に貢献したとして感謝状が贈られたものです。

この経験を通じての治療・看護に関して、佐藤看護師は第38回日本熱傷学会・学術集会で、「ノヴォロシツク石油精製工場火災事故における熱傷患者の緊急援助派遣と緊急搬送」と題し、航空搬送時の強い振動に対する患者への備えや、離陸時の急な気圧の変化・酸素濃度の低下への対応等、看護の実際について発表を行い、出席者の関心を集めました。

また、山口教授は今回の事例に関して9月26日と27日にノヴォロシツクでセミナーを開催し、極東ロシア地方の救命センター長や熱傷センター長ら30人が参加しました。

■ 前立腺がんの最新医療用手術ロボットを導入



前立腺がん大きな成果を挙げている医療用手術ロボット「da Vinci Surgical System (ダ・ヴィンチ・サージカル・システム)」を6月末に導入しました。

この手術ロボットを導入するメリットとしては、従来の開腹手術と比較して小さな腹部切開で手術が可能のため出血量が少量で済むほか、鮮明な3Dの内視鏡画像を見ながらの手術が可能のため通常の腹腔鏡下手術と比較すると安全で確実な手術が行えることが挙げられます。現在、保険の適用対象となるのは前立腺がんのみで(平成24年4月より適用)、他の手術では自費診療となっています。

ていますが、消化器一般外科・呼吸器外科・婦人科領域でも利用可能な機器であるため、今後保険対象手術が増加することが期待されます。

本装置の導入にあたって泌尿器科の奴田原紀久雄教授は「この機器の導入が真に患者さんの予後の改善と副作用の軽減を果たすことにつながるように、日夜努力研鑽をして参ります」と話しています。

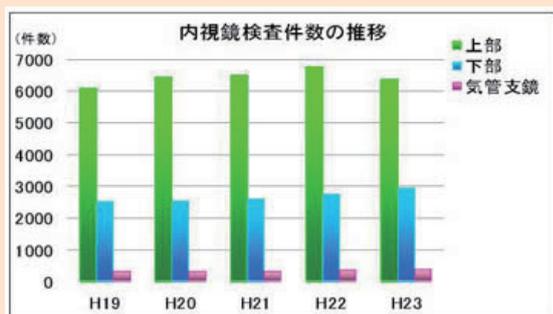
診療科紹介

◆内視鏡室

いつもたくさんの患者さんをご紹介頂き、誠にありがとうございます。我々は的確な内視鏡診断を基本に、患者さんの高い満足度を目標として日々努力しています。

内視鏡検査にはコ・メディカルスタッフとの密接なチームワークが不可欠です。現在、看護師 13 名、看護ヘルパー 1 名、事務職 1 名が常勤し、患者さんを中心として力を合わせて診療に当たっています。また、的確な診断には高い技術と知識を有する検査医が求められます。消化器内科・一般外科医師 32 名（うち、学会認定指導医 6 名、学会認定専門医 17 名）、呼吸器内科・外科医師 24 名（うち、学会認定指導医 12 名、学会認定専門医 15 名）と有能なスタッフが検査に当たっています。さらに、7 室の独立した検査室で、特殊光内視鏡、超音波内視鏡、拡大観察内視鏡、ダブルバルーン内視鏡など、充実した内視鏡機器を駆使し、日夜診療に当たっています。また、内視鏡による低侵襲性治療を目指し、内視鏡の粘膜下層剥離術や超音波内視鏡下ドレナージ術など最先端の内視鏡治療を数多く行っています。

このように地域の内視鏡診療を支えるべく頑張っておりますので、今後も発展を続ける内視鏡検査室にどうかご期待ください。



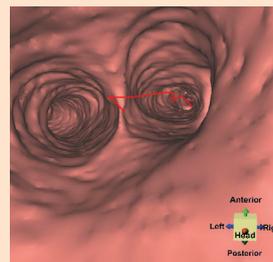
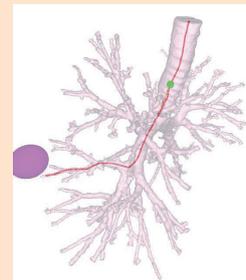
◆呼吸器外科

本年 4 月に静岡県立静岡がんセンターから近藤晴彦教授が赴任し、呉屋朝幸教授を始め 10 名のスタッフで診療にあたっています。

地域の先生方から健康診断などで胸部レントゲン写真異常陰影を指摘された患者さんを多くご紹介頂きありがとうございます。CT、MRI などの画像検査、気管支鏡検査などにより確定診断を付けています。気管支鏡検査ではバーチャル気管支画像、超音波気管支鏡 (EBUS) を駆使し、小型肺結節影の診断、縦隔リンパ節転移診断を行っています。肺癌の手術は原則胸腔鏡を利用した小さな創でのアプローチを積極的に行い、小型肺癌に対する縮小手術 (区域切除)、選択的リンパ節郭清など、病態に応じた手術術式を適確に選択する研究を多施設共同で行っています。また、脳血管疾患、心疾患、糖尿病、腎疾患などの合併症を有する患者さんについても病院の総力を挙げて治療に取り組んでいます。

当科では胸部レントゲン写真異常陰影の精査・確定診断から、肺癌の集学的治療 (手術、抗癌剤、放射線の併用療法)、そして緩和治療まで、一貫した治療体制で対応しています。また、自然気胸など緊急性を要する疾患は 24 時間対応できる体制を取っています。

胸部レントゲン写真の異常所見、また異常が疑われる患者さん等いつでもご相談下さい。



バーチャル気管支鏡画像

三鷹市老人クラブ連合会と共催で健康長寿講演会を開催

当院では三鷹市老人クラブ連合会と共催で健康長寿講演会を定期的に開催しています。9 回目となる今回は 9 月 21 日 (金) に三鷹市福祉会館で、高齢診療科長・もの忘れセンター長の神崎恒一教授による「高齢者の転倒防止について」の講演と、当院で「もの忘れ予防 気らく運動教室」を開催していただいている健康科学大学の金信敬教授による「気らく運動」の実技を行い、三鷹市老人クラブ連合会の会員や一般市民の方、約 70 名が参加しました。

講演会終了後には参加した方々から「転倒予防手帳を見ながら予防法を実践していきます」、「ウォーキングをするのも、家で音楽に合わせて踊るのも同じ運動。できることから始めようと思います」など、明るい表情で感想をいただきました。



杏林大学公開講演会・研修ご案内



公開講演会

※入場無料・申込不要

開催日/時間/場所	テーマ/講師
11月12日(月) 18:00-19:30 三鷹キャンパス・大学院講堂	薬疹をみのがさないために 医学部教授 塩原哲夫
11月17日(土) 13:00-15:00 三鷹キャンパス・第一講堂	子どもの健康 ～医療からのアドバイス～ 帝京大学小児科准教授 小林茂俊、他
11月25日(日) 14:00-16:00 羽村市・生涯学習センター ターゆとりぎ	翻訳が成功する時 -言葉はいかにして文化の壁を越えるのか- 外国語学部講師 八木橋宏勇



がん看護研修・上級編

開催日	テーマ
11月8日(木)	分子標的治療薬の基礎知識
12月13日(木)	分子標的治療を受ける患者の看護 有害事象の予防と看護

研修の内容・申込方法などの詳細は、当院ホームページ (<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/index.shtml>) でご確認ください。